

環境マネジメント

2008年度の目標と実績

中期目標である「2010年環境取り組みプラン」に基づき、年次ごとの目標達成度の評価を次年度の計画に反映し、環境保全活動を推進しています。

■2008年度の目標と実績

| 取り組み項目 | | 中長期目標 | 2008年度 目標 | 2008年度 実績 | |
|--------|---|--|---|--|---|
| 1 | エネルギー・温暖化 | マネジメント | グローバルな事業活動における一層のCO ₂ 低減：中長期シナリオ策定と確実な推進。 | 国内外生産系子会社での削減シナリオにそった活動推進。 | 国内外生産拠点で原単位目標達成。国内外生産系子会社で環境リスク低減活動を推進。 |
| | | 開発・設計 | ディーゼル車メーカー世界ダントツナンバーワンの低排出ガス・低燃費性能を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> 低排出ガス化を達成。 業界トップレベルの燃費水準を達成。 ハイブリッドシステムの一層の性能向上および車種と導入地域拡大。 重量車燃費：燃費規制適合車の早期市場供給を推進。 | 業界トップレベルの低排出ガス・低燃費性能の推進。 | 新長期規制適合車および重量車燃費基準（平成27年度）達成車を拡大。 |
| | | エネルギー・燃料多様化に向けた技術開発。 <ul style="list-style-type: none"> 合成燃料等の評価と対応技術の研究開発。 | 研究開発と性能評価の実施。 | IPT（非接触給電）ハイブリッドバスによる洞爺湖サミットおよび東京都、上高地での走行試験を実施。 | |
| | | 各国/各地域の生産・物流活動における、CO ₂ 低減。 | | | |
| 生産・物流 | <生産> 売上高あたり排出量 1990年度比 35%減 および 総排出量 1990年度比 10%減。 | <生産> 売上高あたり排出量 1990年度比 35%減。総排出量 1990年度比 10%減。 | <生産> 売上高あたり排出量 1990年度比 40%減。総排出量 1990年度比 29%減。 | | |
| | <物流> 総排出量（国内） 1990年度比 10%減。 | <物流> 総排出量（国内） 1990年度比 10%減。 | <物流> 総排出量（国内） 1990年度比 30%減。 | | |
| 2 | 資源循環 | 2015年リサイクル実効率95%達成に向けた取り組みの着実な推進および早期達成。 (1)リサイクル設計のさらなる推進と製品への確実な盛り込み (2)リサイクル性（解体性）評価の充実 (3)解体業者など、関連業者との連携強化 | 社内：ASRリサイクル率70%以上達成（自動車リサイクル法基準30%以上）。 | 2008年度実績：ASRリサイクル率77%。 | |

| | | | | | |
|---|--------|-------|--|---|--|
| | | 生産・物流 | 循環型社会に向けた資源有効利用の一層の推進。 | | |
| | | 生産・物流 | <生産> 売上高あたり排出量 1990年度比 50%低減。 | <生産> 売上高あたり排出量 1990年度比 50%低減。 | <生産> 売上高あたり排出量 1990年度比 67%低減。 |
| | | 生産・物流 | <物流> 国内 梱包資材使用量 1995年度比 45%低減。 水使用量低減（各国で個別に設定） | <物流> 国内 梱包資材使用量 1995年度比 25%低減。 海外各社目標設定。 | <物流> 国内 梱包資材使用量 1995年度比 68%低減。 主要5社で原単位目標設定し、低減活動推進。 |
| 3 | 環境負荷物質 | 開発・設計 | 環境負荷物質の管理、低減の一層の推進。 <ul style="list-style-type: none"> 2006年より国内生産において、4物質の自工会自主目標達成車の導入。 国内生産車に準じた海外生産車の4物質削減の推進。 2007年以降の国内生産新型車より、車室内VOCの基準値を達成。 | SOC4物質低減。 新法規への対応（臭素他） 車室内VOC低減。 | SOC4物質の自工会目標を達成。 新法規の対象物質について推進中。 |
| | | 生産・物流 | PRTR法対象物質の排出量低減。 | | |
| | | 生産・物流 | 国内： 排出量 1998年度比 40%低減。 海外： 各国規制値より厳しい目標を設定する。 | 排出量 1998年度比 40%低減（692トン）。 海外拠点排出実績把握。 | 国内排出量2008年度実績 1998年度比 72%低減（325トン）。 海外拠点排出実績把握中。 |
| 4 | 大気環境 | 開発・設計 | 各国/各地域の都市大気環境改善に資する排出ガス低減。 国内： <ul style="list-style-type: none"> 指定低公害車等の開発・設定。 ポスト新長期規制適合車の開発。 海外： <ul style="list-style-type: none"> US07、US10への対応技術の開発・商品化。 Euro4、Euro5への対応技術の開発・商品化。 | 低排出ガス認定車の認可取得。 指定低公害車の対応。 ポスト新長期規制対応方針決め。海外の規制対応方針決め。 | ポスト新長期排出ガス規制対応車の技術開発を推進。 米国向け新型車情報（US10排出ガス規制対応）をWebにて公表。 |
| | | 生産・物流 | VOC排出量低減。 国内：排出量（ボディ塗装） $35\text{g}/\text{m}^2$ 以下。 | 国内：排出量（ボディ塗装） $35\text{g}/\text{m}^2$ 以下（羽村）。 | 国内：排出量（ボディ塗装） $26.3\text{g}/\text{m}^2$ （羽村）。 |
| | | 生産・物流 | 海外：各国トップレベルの目標を設定する。 | 海外：拠点排出実績把握 | 海外：対象拠点明確化。 |
| | | | 連結環境マネジメント強化。 | | |
| | | | <生産事業体> <ul style="list-style-type: none"> 企画段階から環境対策を確実に織り込むエコファクトリー活動のグローバルな展開。 | 国内外生産系子会社へのエコファクトリー展開。 | 自社生産4拠点、関連子会社プロジェクトでは国内2社および海外3社において本活動を実施。 |
| | | | <非生産事業体> <ul style="list-style-type: none"> CO₂等各事業体環境パフォーマンスのグローバル管理と向上。 | 月度の環境データ連結実施。 | 月度の環境データ連結実施。 |
| | | | <グローバル環境会議> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な開催による、グルー | 海外関連会社生産環境会議 | 海外関連会社生産環境会議開 |

| | | | | | |
|-------------------------------|-----------------|--|---|--|--|
| 5 | 環境経営 | マネジメント | プー丸となった環境保全への取り組み。 | 開催。 | 催。 |
| | | | ビジネスパートナーにおける環境マネジメントの一層の推進。 | | |
| | | | <仕入先> • 仕入先と連携した活動の一層の充実、環境負荷物質の管理充実。 | 事前評価システムでの評価ルールの確立。 | 事前評価システムでのSOC確認。 |
| | | | <国内販社> • ディーゼルメーカートップレベルの日野自動車販売会社環境ガイドラインに基づく販社拠点の環境改善活動推進。 | 販社EMS・5S監査。不適合是正を支援。 | 販社環境会議を開催。全販社220拠点で活動。117拠点でメーカー監査を実施。 |
| | | | → 環境関連法規に順じた適正な設備、作業管理の徹底。 | 目標：EMD認定率90%。 | EMD*認定率92%、202拠点を認定（前年+7拠点）。*エコマネジメントディーラー |
| | | | → エネルギー使用量、廃棄物排出量の把握による削減活動への取り組み。 | 目標：CO ₂ 、廃棄物、水の削減目標06年度▲3%。 | 実績：CO ₂ ▲6%、廃棄物▲21%、水▲8%。廃棄物は売却リサイクルする事で減少。 |
| | | | <海外販売会社> • 海外代理店のオペレーションより発生するCO ₂ 等の把握。 | 月度エネルギー使用量データの定期入手。 | 海外非生産拠点6社とデータ連結実施。 |
| | | | 環境教育の充実・・・従業員の環境意識向上を目的とした環境教育の継続的实施。 | 環境講演会の開催。 | 白井社長による環境講演会の開催（7/11）。 |
| | | LCAの考え方を踏まえた自動車環境総合評価体制の導入 • 推進体制の構築と、作業環境（データベース、コンピューターネットワーク等）の整備及び運用。 | LCA手法に基づくCO ₂ 削減活動の実務展開。 | ライフサイクルでのCO ₂ 排出量把握と削減の取り組みに着手。 | |
| | | 社会との連携 | 環境保全活動への寄与貢献。 | | |
| | | | • 日野自動車グリーンファンドの運営支援による社会貢献。 | 日野自動車グリーンファンド事業の支援。 | 財団は、17団体へ911万円の助成を実施。昨年度の助成先4団体の現地訪問を実施。各種地域活動への協力を積極的に推進（イベントの広報協力、社用バス提供など）。 |
| | | | • 長期的な視野にたった、環境教育等を通じての地域貢献。 | 地域に密着した活動の推進。 | 4/5：さくら祭りへ参加、5月～9月：実行委員会、7/26：ぐんま昆虫の森バスツアー、10/11：炭焼きイベント実施、'09/2/10：環境講演会。 |
| | | | 環境情報開示と双方向コミュニケーションの充実。 | | |
| | | | • エコドライブ情報のお客様への提供。 | お客様テクニカルセンターを通じたエコドライブ教育の実施。 | 2008年度 来場者数5,503名（開設以来の累計：18,337名）。 |
| • 各国・各地域での環境報告書のさらなる充実。 | CSRレポート発行。 | | CSRレポート発行、パキスタン環境・社会報告書発行（2/10）。 | | |
| • 地域社会とのコミュニケーションをグローバルに一層充実。 | 地域コミュニケーションの推進。 | パキスタンで地元小学校と地域清掃活動実施。国内日野各工場に住民懇談会実施。 | | | |
| 持続可能な発展を踏まえた環境 | | | | | |

| | | | | |
|--|--|--|----------------|------------------------------------|
| | | 政策への積極的な貢献と提言。 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none">経団連・自工会等産業界の環境取り組みの推進。 | 自工会等の活動への積極参画。 | 自工会各委員会、部会への参加（安全環境技術委員会・環境委員会ほか）。 |